

球磨村長 松谷 浩一 様

球磨村義務教育学校一体型校舎建設に関する提言書

令和5年第5回臨時会において、村長より渡地区「さくらドーム」周辺に義務教育学校一体型校舎を建設する、として義務教育学校一体型校舎建設設計業務委託料等の一般会計補正予算が提案されました。

提案理由として、令和2年7月豪雨災害及びそれ以上の災害が発生した場合でも、学校施設及び周辺が被災しない「子どもたちの命を守る」ことのできる最も安全な場所、早期に学校再開が可能な場所を最優先として、渡地区「さくらドーム」周辺での建設を判断したと述べられました。

しかし、「球磨村議会」としては、この一般会計補正予算の議案を否決いたしました。

議案を否決し、「一勝地地区」での建設を支持する理由は、以下のとおりです。

① 「位置」 村の中心地が望ましい。

これまで統廃合した「球磨中学校」及び「一勝地小学校」の歴史的背景、統合した経緯を踏まえた上での熟考した判断とは言えず、「一勝地地区」が渡地区・一勝地地区・神瀬地区・三ヶ浦地区・高沢地区の中心に位置し、児童生徒の通学の公平性が保たれ、保護者の集合にも適している。

また「一勝地地区」には、周辺に役場・消防西分署・一勝地駐在所・一勝地郵便局・球磨村診療所等の公的機能が集中している箇所である。

② 「施設」 球磨中学校・一勝地小学校の既存の施設を充分利活用できる。

球磨中学校校舎を改築することでの対応、体育館・運動場・プール・給食調理場など既存の施設をそのまま活用することが可能である。

③ 「財政」 財政状況を充分考慮し、負債を最小限に抑えるべきである。

学校関係の新たな施設を、全て一から造ることは財政的に厳しい。

人口減少が進む中、起債は普通交付税措置があるとはいえ借金であり、多額の借入は、将来の村民・若い世代に負担を強いることになる。

④ 「発展」 球磨村全域に亘る発展、各地域の特色ある振興を考える場合、教育環境の整備も中心地が望ましい。

「渡地区」に建設することで、一勝地地区を含めた神瀬地区、三ヶ浦地区、高沢地区の過疎化がますます加速して地域格差が広がり、地区のバランスが保てなくなり、今後の球磨村の振興そのものに影響を及ぼし兼ねない。

⑤ 「アンケート」 住民や保護者の意見を尊重する必要がある。

アンケート結果を見ると、6割強の村民が、球磨中学校跡地、現在の球磨中学校・一勝地小学校を利活用する案、すなわち「一勝地地区」に義務教育学校を建設するという案を支持されており、渡地区に義務教育学校を建設するという事は「村民の声」を無視することになる。

⑥ 「さくらドーム」は防災の拠点となった経緯を踏まえ、残すべき施設である。

従前より、グラウンドゴルフや保育園の発表の場、祭り会場など村民憩いの場として利用されており、令和2年7月豪雨災害時に臨時的に防災拠点、避難施設となったことを踏まえ、将来的にも災害関連の拠点として残すべき施設である。

以上が、渡地区「さくらドーム」周辺での義務教育学校一体型校舎建設に係る予算を否決し、「一勝地地区」での建設を支持する理由です。

今後においては、「一勝地地区」での義務教育学校一体型校舎建設を

推進するべく、次のとおり提言いたします。

①「安全性・アクセス」 道路の改良や施設の安全対策等の検討。

防災面での安全性の確保は重要であると承知している。

これまで渡地区ありきで進められてきたことから、「一勝地地区」の安心安全な教育環境の充実対策等については講じられていない。

今後、財政状況を十分に見極め、球磨中学校学校敷地の嵩上げ、校舎ピロティー化による浸水対策、止水壁設置による溢水対策、その他の対策により災害危険要因を着実に排除する必要がある。

また、「学校再開」とは、全ての児童生徒が安全に学校に通学出来ることが、本来の「学校再開」と考えており、通学路を含め早期に学校再開を可能とするための対策等を検討すべきである。

②「今後の計画案の提示」 一勝地地区での一体型校舎建設（B・C案）の計画案を示すこと。

今回の否決を受けて村では、一勝地地区での一体型校舎建設（B・C案）については白紙に戻すと言われたが、これまで執行部は義務教育学校の一体型を推奨してきており、A案がなくなったからB・C案もなくなるというのは、アンケートに答えた住民に対してあまりにも無責任である。

座談会における資料も渡地区のA案ありきであったため、一勝地地区のB・C案における補助金見込額等の精査もされていない。今後の文科省との協議において、一勝地地区での一体型校舎建設も可能であるなら補助金の額も大幅に変わってくると思われる。

また、当面、義務教育学校は分離型でとのことであるが、球磨中学校の改修は将来を見据えて進める必要があり、一勝地地区での一体型校舎建設を考えれば、最小限の改修に留め、村単独の支出を抑える必要が

ある。

今後、一勝地地区での義務教育学校校舎建設について、補助金等の財源確保に期限もあることから、方向性、スケジュール、財政面等を十分検討して建設計画を立て、議会はもとより住民にきちんと示すべきである。

③渡地域全体の整備

渡総合運動公園一帯は現在、渡災害公営住宅の整備、塚の丸や一王子の分譲地、特別養護老人ホーム千寿園の整備が進められており、渡地区での義務教育学校建設が否決された今、人口減少に歯止めをかけ、移住定住促進に寄与すべき地域として捉え、整備を進める必要がある。

また、渡小学校・千寿園の跡地や渡駅周辺の村有地の活用についても、復興まちづくり計画に基づいて整備を進め、早急に渡地域全体の振興を図っていかねばならない。

以上、様々な観点から「球磨村議会」では、一勝地地区（B・C案）での整備が望ましいと判断し、来年4月から義務教育学校を分離型でスタートの後、補助金の活用等財政的な面も十分検討しながら、一体型に移行する準備を遅滞なく、計画的に行なうことが重要であると考えます。

一勝地地区に義務教育学校を建設するための様々な課題を解決していくとともに、今後の球磨村の振興発展に尽力していかねばならないとの強い思いを込めて、「球磨村議会」の義務教育学校一体型校舎建設に関する提言書といたします。

令和5年8月7日

球磨村議会